松代公民館新聞

発行所 松代公民館
編輯兼発行人 館長 佐藤秀雄
発行日 毎月3回 10日 20日 30日

暴力の一掃について

松代警部補派出所

明朗なる村に、郷土を愛する故に
飲酒暴力の蠻風を一掃せよ!!

暴力とは何か?

暴力とは正義や真理によつて他人の行為を準則せしめずして専ら自己の意志により他人の本来の意示に反して或る行為を強制せしめることであります

過去の日本人は義理人情という言葉を[illegible]ではその義理と真理とはどう違う 又人情は正義とどう違うか 義理をつくすことは必ず真理に従うことではなく 人情は又直ちに正義に一致するものではありません 日本人は殺人、強盗、強姦、売国、裏切、其の個人的の極悪を[illegible]せんとすることに於ては世界村りて大すであると或る本に或る学者が言つて居ります

此の暴力と一掃せぬ限り議会に於ても村に民主々義の行われる事は絶望であると強調致します

民主々義は[illegible]なく会議制と多数決に在る この多数決が正しく行われる為には各個人が外から何等の影響も受けず自由に表明された意思によつて行動し、この行動により多数決が成立することを必要とするのであります

皆さん、暴力によつて何事でも自己の意思を通さんとするような非民主的な考へを一日も早く一掃することに努めなければ民主社会の実現は不可能であります

[illegible]に観て本件何所も同じく余りに[illegible]が多く[illegible]人間が多いので弱ります 此の原因には種々あるが[illegible]飲酒により[illegible]事でも解決せんとすれば[illegible]ことになる 常に認識し[illegible]自覚して他人に迷惑をかけぬ様に努め 我が郷土を愛する精神で努めて

当地方に頻発する飲酒に基く暴力の蠻風を一掃し明朗なる民主社会に御協力下されんことを熱望致します

（昭二三、一二、二八 記）

昨年十一月 建築委員長を拝命致しました。何分にも[illegible]年とてどうかと存じましたけれども当初より[illegible]努めましたもの、この大計画大建築が[illegible]遂行出来たのであり

御禮申上げます

中学校落成に就いて

挨 御指導は絶大なるもので あつた 要約は竣功十月三十日 であつた 二ヶ月を遅れたが資材難の昨今と九月以降小止みもなく降り続く雨からも致し方ないというものであろう

今日迄幾ケ月の日夜を過して出来上つた校舎は五間に三十五間 外に[illegible]昇降口 小使部屋と合算すれば 總延坪三九六坪五勺 和洋折中の二階建 新[illegible]のであります 三百十万円の總工事費 私共は見たこともない金額である 百円札で十吾[illegible]などという 而し各方面よりの御支援[illegible]

松中学校としては郡下三番を下らぬという 勿論木材には[illegible]できない [illegible]今年令[illegible]よる為に[illegible]いて 郷下一の中学校を建築したとすれば立派な[illegible]が出来たものであると悦びに堪えないものがある ・尚又本村出身で関東 関西方面へ進出されている方々が 現金で九万六千円と 校旗一旒 時計七千円を御寄贈して下さった 雪深い郷里の戦後の復興と発展と教育の向上に如何に心を砕かれて居られるかを思うと き眼頭の熱くなるを覚えるものである 私は落成式当日 各方面よりよくもこのような御厚援を賜ることが出来たのである よくもこの大建築が成し遂げられたものであると 感激の余り涙を止めることが出来なかつた 校具教育材料 その他の諸設備は何一つ出来ていないが これ等は年を追って逐次[illegible]かかるを得れば 佛作って魂入れずでは 骨折りが骨折りとならないであろうから 今一層奮発すべきであろうと思う 落成式終了に当り 村内諸賢に、この公民館新聞をお借りして 厚く御禮申上げます

愈々旧年越し、どうぞ皆さん御元気で希望の昭和二十四年を迎いましょう

十二月二十九日
松代中学校建築委員長
樋口廣吉

おわび
本号は、年末多忙のため勝手乍ら右の記事を[illegible]に載せます

投書欄

忘年会

六三制で明けて六三制で暮れたような感じのする年であつた 六三制整備費
松代本校 三百十万円
清水分校 九十五万円
孟地分校 一百四十万円
計金 五百四十五万円
[illegible]であるが 良くも斯う所迄[illegible]と思う 此の公費公課を加えれば一千万円を超すかもしれない [illegible]村民がよく之を負担したと云えばそれ迄だが 而しその陰には外面にこそ現われないが[illegible]建設に働く[illegible]

[illegible]

物心があるようになつて以来 自己の迎えて来た幾つかの年で、いつでも、はつきり思い出せるとしたら どんなものかどうか 嬉しかつたこと 悲しかつたこと 苦しかつたことが 人それぞれ、いつでもいつぱい合うことが 人生の不明朗[illegible]この外はない

『人は昔のことは後になるとみんな忘れ去る』というが これは忘れ去るということを意味することであろう 一切合切忘れ去つてもその又どうかと思うけれども 明朗の生涯を送るにしたい先ず忘れることである

そこで、この意味から催されるのが忘年会は、それなりの意義又大きいとも言えるであろう 而し忘年会という言葉、官公衙、学校、会社、事業所等の専有物のように考えられている向きもあるが 年末近くになると[illegible]秋ごと、[illegible]結局は[illegible]一夜であろう 真に[illegible]人生を明るく渡るという見方から忘年会を歓迎してみたい 衣食足りて礼節を知るとか 言葉は立派だが 現世の社交人は呑み食いはおろか社交[illegible] 而し胃腸病を起してまで呑み食いをして食う、着るとは考えてもいない

昭二三 一二 二〇 記
山賀